

平成31年3月20日

下松市笠戸島の一時孤立を教訓

船を活用した災害対策検討会でとりまとめ

～住民などへ船の利用実態についてアンケートを実施～

今年7月の西日本豪雨災害では、本土と唯一つながる県道が複数箇所崩落し、下松市笠戸島が一時孤立しました。通勤・通学・通院・買い物などは、移動手段を船に頼らざるを得なくなり、住民は生活維持のために海上交通を利用しました。



災害が発生した際に、離島や半島部などは孤立するおそれがあり、笠戸島の場合ではどのような障害や問題点があったのかを、被災した地域の方々や関係機関と意見交換をし、この教訓を今後の対応策として、住民生活の不安・不便を最小限にするための様々な検討を行いました。



本検討会は今年1月から開催し、今回が下記のとおり最終となり、とりまとめを行うことにしております。

なお、今回の検討会においては、学術的な立場から山口大学大学院山本晴彦教授に、環境防災学の立場から座長をお願いし、また、大島商船高等専門学校行平准教授には、海上交通工学の観点から幹事を依頼して、専門的な知見から助言を受けて実施しております。

記

日時：平成31年3月25日（月） 14時から

場所：徳山港湾合同庁舎 3階会議室

なお、会議は非公開としておりますので、取材は冒頭までとしております。

○「平成30年7月西日本豪雨災害での笠戸島住民孤立に関する調査検討会」とは、山口大学山本教授、大島商船高専行平准教授、下松市、同市笠戸島公民館、同深浦公民館、株式会社新笠戸ドック、山口県旅客船協会、周南土木建築事務所、周南港湾管理事務所、中国地方整備局山口河川国道事務所、下関地方气象台、徳山海上保安部、山口運輸支局徳山庁舎の各委員で構成し、今回の災害で行政機関等の対応を振り返り、課題を抽出し対応策の検討を行い、今後の防災対策の生かすことを目的とした検討会です。

【本件に関する問い合わせ先】

中国運輸局 山口運輸支局 徳山庁舎内
事務局 担当：坂田・三好

TEL 0834-21-0180 Fax 0834-32-4094